

国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する
アンケート調査（案）

株式会社トータルメディア開発研究所

アンケート調査の概要とポイント

■アンケート対象者と選定意図

- ①無作為抽出による3,000名（男女それぞれ1,500名、10代～70代を平均的に抽出）
（半数を首都圏、残りの半数を地方各地で均等に割り、対象とする）
→現在、研究者等による専門的な利用が多いため、広く一般層のニーズを探り、国立公文書館の幅広い利用を促すための参考とする。
- ②学校教員1,000名
→今後、国立公文書館の学校団体のさらなる利用促進を図るために、学校利用の立場からのニーズを探り、今後の検討の参考とする。

■調査方法

- ネットリサーチ手法の活用
上記の条件に合致した調査対象者の抽出がしやすく、郵送・回収の方法に比べて、回収率が高いため。
- リサーチの手順
 - ①調査票をウェブ画面にし対象者に配信
 - ②期限までに回収し、一次集計・クロス集計の後に分析

■調査票作成のポイント（今後の機能・施設の在り方等の検討にいかすために）

- ・国立公文書館の認知度、来館動向、利用目的等を探り、現状の課題を抽出する設問を設定する。
- ・国立公文書館に対するニーズや期待、今後の要望等を、機能分野別に抽出する設問を設定する。
- ・対象者属性による回答内容の共通点や相違点等を抽出し、比較・分析ができる設問の構成とする。

■調査期間

- 2月初旬：アンケート配信
- 2月中旬～下旬：アンケート回収
- 2月下旬～3月上旬：集計・分析

アンケート調査 一般層向け

属性調査	Q 1～Q 3	属性（年齢層・居住地域など）に関する設問
利用実態調査	Q 4～Q 9	国立公文書館等の認知度や利用実態に関する設問
ニーズ調査	Q10	国立公文書館の事業に対する嗜好性
	Q11～Q13	企画展の開催テーマや、展示手法等に関する設問
	Q14	教育・学習プログラムに関する設問
	Q15～Q16	国立公文書館の周知や利用促進を図るための情報発信手段に関する設問
	Q17	施設や設備に関する設問
	Q18	国立公文書館を利用しやすい時間帯に関する設問
	Q19	その他、全般的な事項に関する自由記述設問

アンケート調査 教員向け

属性調査	Q 1～Q 3	属性（年齢層・学校所在地域など）に関する設問
	Q 4～Q 6	属性（学校のタイプや担当教科など）に関する設問
利用実態調査	Q 7～Q 9	国立公文書館の認知度や利用実態に関する設問
訪問可能性調査	Q10～Q13	都内の施設の校外学習利用の可能性に関する
ニーズ調査	Q14	国立公文書館の事業に対する、学校利用の観点からの嗜好性
	Q15～Q16	生徒を対象とした効果的な展示手法や展示学習ツール等に関する設問
	Q17	教育・学習プログラムに関する設問
	Q18	校外学習訪問先の情報入手手段に関する設問
	Q19	学校団体利用に鑑みた施設や設備に関する設問
	Q20	国立公文書館の事業や活動への、教員参加の可能性に関する設問
	Q21	その他、全般的な事項に関する自由記述設問

アンケート調査項目（案）一般層向け

属性に関する設問		
設問設定の主旨	設問	選択項目
以降の回答に対する属性性別集計に利用する。	Q 1. あなたの年齢を次のうちからお選びください。	ア. 10代 イ. 20代 ウ. 30代 エ. 40代 オ. 50代 カ. 60代 キ. 70代以上
	Q 2. あなたの住んでいる都道府県をお選びください。	都道府県を選択肢として設定
	Q 3. あなたの職業分野を、次のうちからお選びください。	日本標準産業分類を基本に、ネットリサーチにおける標準職種もふまえて設定 (※別途資料参照)

国立公文書館等の利用実態に関する設問		
設問設定の主旨	設問	選択項目
博物館等への来館実態を調査し、回答者の分類・分析に役立てる。	Q 4. あなたは博物館等の文化施設をどの程度利用しますか。	ア. 1年に4回（1シーズンに1回）以上利用する イ. 1年に1～3回程度利用する ウ. 1年に1度も利用しない
回答者の興味関心を調査し、回答者の分類・分析に役立てる。	Q 5. あなたが興味のある分野について、次の中からお選びください。(複数選択可能)	ア. 歴史 イ. 生活文化・民族 ウ. 考古 エ. 政治・経済 オ. 産業 カ. 理工 キ. 自然 ク. 文学 ケ. 芸術

アンケート調査項目（案）一般層向け

<p>国立公文書館への来館実態を把握する。</p>	<p>Q 6. あなたは国立公文書館に行ったことがありますか。</p>	<p>ア. 行ったことがある →Q 7へ イ. 行ったことがない →Q 8へ</p>
<p>国立公文書館に行ったことがある人に対して、訪問理由や目的を調査する。</p>	<p>Q 7. Q 6で「行ったことがある」と答えた方にお聞きします。訪問した理由について、次の中からお選びください。（複数選択可）</p>	<p>ア. 公文書の閲覧 イ. 展示の観覧 ウ. 公文書に関する講座・講演会への出席 エ. 体験プログラム・ワークショップへの参加 オ. 施設見学（閲覧室、書庫・収蔵庫、資料修復室、バックヤード見学等） カ. その他（自由記述）</p>
<p>国立公文書館に行ったことがない人に対して、訪問しない理由を調査し、今後の施設・機能等の検討の参考とする。</p>	<p>Q 8. Q 6で「行ったことがない」と答えた方にお聞きします。なぜ、行ったことがないのですか。（複数選択可）</p>	<p>ア. 存在自体を知らなかったから イ. どんな施設かよくわからないから ウ. 楽しそうな（面白そうな）施設に思えないから エ. 一般の人が利用できる施設だとは思わなかったから オ. 公文書館・公文書に、興味がないから カ. 興味のある催しがないから キ. その他（自由記述）</p>
<p>国立公文書館ホームページの利用実態を把握する。</p>	<p>Q 9. あなたは国立公文書館のホームページをご覧になったことがありますか。</p>	<p>ア. はい イ. いいえ</p>

アンケート調査項目（案）一般層向け

国立公文書館に対するニーズ調査

Q10以降は、下記リンクの「国立公文書館の概要」をご覧ください。全員の皆様にご回答ください。

また、必要があれば国立公文書館ホームページをご覧ください。

リンク参照先：「国立公文書館の概要」●●●●●●●●●●

「国立公文書館ホームページ」<http://www.archives.go.jp>

<p>国立公文書館の事業やプログラムに関する嗜好性を調査する。</p>	<p>Q10 国立公文書館では一般の方に向けて、公文書館の活動や公文書について理解を深めてもらうための活動を行っています。国立公文書館で見たい（または利用したい）事業やプログラムを次のうちからお選びください。 (複数選択可)</p>	<p>ア. 公文書の閲覧 イ. 展示の観覧 ウ. 公文書に関する講座・講演会への出席 エ. 体験プログラム・ワークショップへの参加 オ. 施設見学（閲覧室、書庫・収蔵庫、資料修復室、バックヤード見学等） カ. 特になし キ. その他（自由記述）</p>
-------------------------------------	--	--

※Q11以降は、国立公文書館の機能分野ごとに対するニーズを調査し、今後の機能検討の参考とするために行うものです。

各機能に関するニーズ調査

展示機能

<p>国立公文書館の企画展に関するニーズを調査し、展示テーマに関する嗜好性を把握する。</p>	<p>Q11 国立公文書館では定期的に企画展を開催しています。どのような企画展に興味をお持ちになりますか。次のうちからお選びください。（複数回答可）</p>	<p>ア. 江戸時代の文書に関する企画展 イ. 明治時代の文書に関する企画展 ウ. 昭和時代の文書に関する企画展 エ. 平成時代の文書に関する企画展 オ. 政治をテーマとした企画展 カ. 経済をテーマとした企画展 キ. 生活をテーマとした企画展</p>
---	--	--

アンケート調査項目（案）一般層向け

	<p>※回答の参考として、国立公文書館ホームページの「過去の展示会」をご参照ください。 国立公文書館の過去の展示会リンクアドレス http://www.archives.go.jp/exhibition/past.html</p>	<p>ク. 教育をテーマとした企画展 ケ. 産業をテーマとした企画展 コ. その他（自由記述）</p>				
<p>公文書は文字主体の資料が多いため、来館者の興味を喚起し、理解を深めるための展示手法が特に求められる。そのポイントについて利用者の嗜好性を調査し、今後の展示機能検討の参考とする。</p>	<p>Q12 文書史料を展示するにあたって、その理解を深めるためには、様々な展示の方法や工夫が想定されます。 次にあげる展示の手法について、興味が湧くかどうかを4段階から選んでください。 また、その他に興味が湧くと思う展示の方法がありましたら、あげてください。</p>	<p>項目</p>	<p>特に 興味が 湧く</p>	<p>ある程度 興味が 湧く</p>	<p>あまり 興味が 湧かない</p>	<p>まったく 興味が 湧かない</p>
		<p>原本（本物）の展示</p>				
		<p>文書に何が書いてあるのかを詳しく解説した展示</p>				
		<p>文書が自分とどのように関係しているのかということを解説した展示</p>				
		<p>文書史料以外に、ビジュアルな資料（写真や映像等）を組み合わせた展示</p>				
		<p>文書史料以外に、関連する立体的な実物資料を組み合わせた展示</p>				
		<p>デジタル技術（映像やバーチャルな手法）を取り入れた展示</p>				
		<p>文書が作成された状況・情景などを再現した展示</p>				
		<p>その他、訴求力があると思う展示の方法（自由記述）</p>				

アンケート調査項目（案）一般層向け

<p>展示に係る付帯的サービスについてのニーズを探り、今後の展示機能検討の参考とする。</p>	<p>Q13 次にあげる展示観覧を補完するサービスについて、その必要性を4段階から選んでください。 また、その他にあった方が良くと思う展示観覧の補完的なサービスがありましたら、あげてください。</p>	項目	必ず あった方がよい	ある程度 あった方がよい	とくに なくてもよい	まったく 必要がない
		スタッフによる展示の解説案内サービス				
		展示内容に関する解説シート（配布用）の設置				
		子ども向けの展示解説シート（配布用）の設置				
		展示資料目録（配布用）				
		音声ガイド端末の貸し出しサービス				
		展示に関連した講演会や講座の開催				
		展示図録の販売				
		その他、あった方が良くと思う展示観覧の補完的なサービス（自由記述）				
学習機能						
<p>海外の施設でも、公文書を活用した教育に関して、様々な工夫による取り組みが行われている。そのあり方について</p>	<p>Q14 次にあげる文書を使った教育・学習プログラムについて、その必要性を4段階から選んでください。 また、その他にあった方が良く</p>	項目	必ず あった方がよい	ある程度 あった方がよい	とくに なくてもよい	まったく 必要がない
		文書史料以外に、ビジュアルな資料（写真や映像等）を組み合わせた学習プログラム				
		ゲームやクイズ等を取り入れたワークショップ形式の学習プログラム				

アンケート調査項目（案）一般層向け

て、利用者側のニーズを探り、今後の学習機能検討の参考とする。	と思う教育・学習プログラムがありましたら、あげてください。	インターネットを活用したオンライン学習プログラム				
		文書に関するより専門的な内容について学べるプログラム				
		その他、あった方が良くと思う公文書を使った教育・学習プログラム（自由記述）				
情報発信機能						
これまで国立公文書館の認知度不足が指摘されている。この点に鑑み、利用者の視点に立った効果的な広報手段について探り、今後の情報発信機能検討の参考とする。	Q15 あなたは、ふだん、博物館や美術館などの情報をどのようにして入手していますか。次にあげる情報入手手段について、その活用頻度を4段階から選んでください。また、その他によく活用する情報入手手段がありましたら、あげてください。	項目	特に活用している	ある程度活用している	あまり活用していない	まったく活用していない
		館のホームページ				
		新聞・雑誌等の企画展や催事等の記事・論説・広告				
		企画展や催事等を告知するポスターやチラシ				
		企画展や催事等を告知するメールマガジン				
		館のSNS（Twitter、Facebook等）				
		その他、よく活用する情報入手手段について（自由記述）				

アンケート調査項目（案）一般層向け

<p>館と利用者の日常的なコミュニケーションのしくみを構築しておく事は、リピーターの獲得やマーケティングの観点からも重要である。この点について、利用者の意見を探る。</p>	<p>Q16 国立公文書館等の施設と利用者をむすぶ運営・サービスに関する項目について、その必要性を4段階から選んでください。また、その他に館と利用者をむすぶしくみに関して、あった方がよいと思うものがありましたら、あげてください。</p>	項目	特に必要だと思ふ	ある程度必要だと思ふ	あまり必要だと思わない	まったく必要だと思わない
		館内にインフォメーションの設置				
		ボランティアによる案内・解説ガイド				
		友の会の設置				
		ソーシャルメディアを通じて館と利用者がコミュニケーションするしくみの導入				
		その他、館と利用者をむすぶしくみに関してあった方がよいと思うもの（自由記述）				
その他						
<p>施設・設備の充実、来館者満足度を高める観点から重要である。この点について、利用者の意見を探り、今後の施設の在り方検討の参考とする。</p>	<p>Q17 国立公文書館等の施設を利用する上で、次にあげる諸室や設備に関する項目について、その重要性を4段階から選んでください。また、その他に諸室や設備へのご希望がありましたら、あげてください。</p>	項目	特に重要だと思ふ	ある程度重要だと思ふ	あまり重要だと思わない	まったく重要だと思わない
		レストランやカフェ等、飲食施設の充実				
		ショップの充実				
		図書館（ライブラリー）				
		研究者の利用できる研究スペース				
		トイレや休憩スペース等、快適な施設利用のための諸室・設備の充実				

アンケート調査項目（案）一般層向け

		施設のバリアフリー、ユニバーサルデザイン				
		その他、諸室や設備への希望（自由記述）				
国立公文書館に来やすい時間帯を探り、今後の施設の在り方の参考にする。	Q18 国立公文書館を利用する上で、次にあげる時間帯について、利用しやすい時間帯はいつですか。（複数回答可）	ア. 平日の9:00～12:00 イ. 平日の12:00～17:00 ウ. 平日の17:00以降 エ. 土日・祝日の9:00～12:00 オ. 土日・祝日の12:00～17:00 カ. 土日・祝日の17:00以降				
国立公文書館全般について、要望や意見を広く収集し、今後の施設・機能等の検討の参考とする。	Q19 その他、国立公文書館の施設や事業・サービス、その他、全般についてご意見ご要望などを自由に記述ください。	自由記述				